令和５年度　働き方改革に関する意識調査の結果について

学校における働き方改革に関する教職員の意識や課題等について把握し、現状の働き方の把握や今後の取組を検討するにあたっての根拠資料とするため、以下の通り県内すべての公立学校に勤務する教職員を対象にアンケート調査を実施しました。

〇対象者：県内の全県費負担教職員
（※非常勤講師・会計年度職員は一部の問いに回答）
〇調査方法：インターネット上のアンケート回答フォームにより回答
〇調査時期：令和６年１月９日から令和６年１月 31 日
〇有効回答者数：6,338 人（約 51%）※非常勤講師・会計年度職員除
内訳：　小学校（義務教育学校前期課程含む。）　3,114 人
中学校（義務教育学校後期課程含む。）　1,677 人
高等学校 1,109 人
特別支援学校 438 人

〇回答者数 職種別

	小学校	中学校	高等学校	特別支援学校	総計
校長	133	58	28	8	227
副校長・教頭	172	86	38	21	317
主幹教諭・教諭・講師・臨時講師	2419	1339	881	352	4991
実習教諭・実習助手	1	2	50	16	69
養護教諭・養護助教諭・栄養教諭・栄養職員	246	124	74	33	477
学校司書			24		24
寄宿舎指導員		1		3	4
事務長・事務職員	142	67	10	4	223
技能労務職員	1		4	1	6
非常勤講師・会計年度任用職員	221	86	73	24	404
総計	3335	1763	1182	462	6742

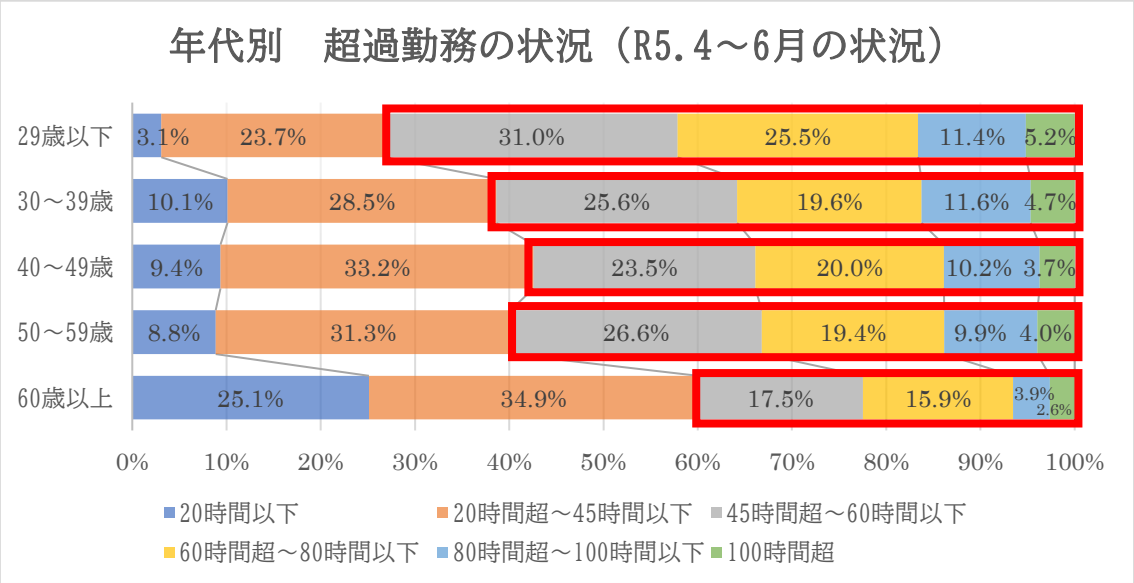
〇回答者数 年代別

	小学校	中学校	高等学校	特別支援学校	総計
～29 歳	751	389	136	47	1323
30～39 歳	820	458	231	103	1612
40～49 歳	614	291	200	116	1221
50～59 歳	686	397	360	129	1572
60 歳以上	241	140	181	39	601
未回答	2	2	1	4	9
総計	3114	1677	1109	438	6338

（１）年代別・職種別の勤務の状況

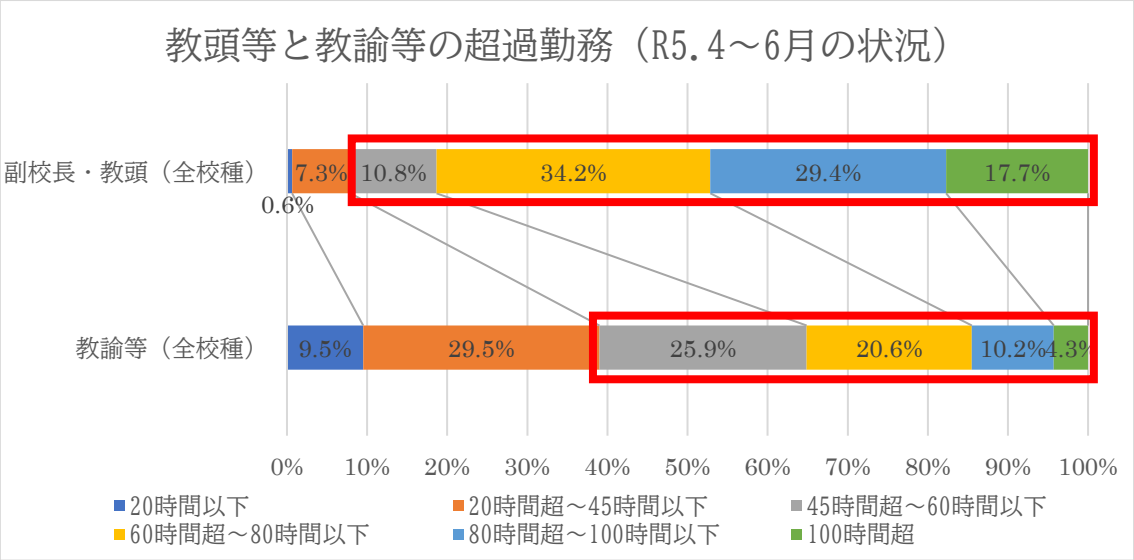
①年代別の勤務の状況（主幹教諭・教諭・講師・臨時講師）

本アンケート調査では、令和５年の４～６月の超過勤務時間（時間外在校等時間）の状況を尋ねました。回答者を年代別にみると、20 歳代に長時間労働の傾向が見られます。月 45 時間を超える超過勤務について、20 歳代は 73.2%で、令和４年度調査の 69.1%から 4.1%増えました。一方、20 歳代以外の年代では減少しました。



②職種別の勤務の状況

職種別で長時間労働の割合が高いのは、副校長・教頭です。45 時間を超える超過勤務を行ったと回答した割合は、92.1%で、令和４年度調査に引き続き９割を超えています。



③超過勤務の中身

アンケート調査では、超過勤務の中身について尋ねています。主幹教諭・教諭・講師・臨時講師（以下、教諭等）で、超過勤務の要因として多く回答されているものは、「授業準備」や「校務分掌業務」でした。また、中学校・高等学校では、「部活動指導」と答えた割合が高い結果となりました。

○超過勤務の中身（教諭等）

職種	校種	1	2	3	4	5
教諭等	小学校	授業準備	校務分掌業務	成績処理（採点業務含む）	学年・学級経営	学校内の会議や打ち合わせ（資料準備、事後処理を含む）
		63.7%	45.1%	40.8%	32.9%	32.6%
	中学校	部活動指導	授業準備	生徒指導（家庭訪問を含む）	校務分掌業務	成績処理（採点業務含む）
		57.4%	43.9%	42.3%	34.4%	27.1%
	高等学校	部活動指導	授業準備	校務分掌業務	成績処理（採点業務含む）	学校内の会議や打ち合わせ（資料準備、事後処理を含む）
		60.2%	54.6%	43.1%	27.5%	21.3%
	特別支援学校	授業準備	校務分掌業務	学校内の会議や打ち合わせ（資料準備、事後処理を含む）	成績処理（採点業務含む）	保護者対応
		65.9%	59.7%	48.9%	28.4%	16.5%

中でも他の年代より長時間勤務となっている 20 歳代教諭等で、月 80 時間を超えて勤務したと答えた人の多くは、「授業準備」、「部活動指導（中学校・高等学校）」が要因となっています。

○超過勤務の中身（20 歳代、時間外在校等時間 80 時間超の教諭等）

校種	超過勤務の中身	
小学校	授業準備	成績処理
中学校	部活動指導	授業準備
高等学校	部活動指導	授業準備
特別支援学校	授業準備	学校内の会議や打ち合わせ

副校長・教頭は、超過勤務の要因に、「校務分掌業務」や「会議・打ち合わせ」を挙げる割合が高く見られました。副校長・教頭が担当する校務分掌とは、教職員の服務管理に係る事務、各種調査統計事務、臨時講師等の任用事務等の校務運営業務であり、内容は多岐にわたります。

○超過勤務の中身（副校長・教頭）

職種	校種	1	2	3	4	5
副校長・教頭	小学校	校務分掌業務	学校内の会議や打ち合わせ（資料準備、事後処理を含む）	保護者対応	生徒指導（家庭訪問を含む）	その他
		86.5%	71.9%	43.3%	21.1%	15.8%
	中学校	校務分掌業務	学校内の会議や打ち合わせ（資料準備、事後処理を含む）	保護者対応	その他	生徒指導（家庭訪問を含む）
		76.2%	61.9%	36.9%	23.8%	22.6%
	高等学校	学校内の会議や打ち合わせ（資料準備、事後処理を含む）	その他	保護者対応	校務分掌業務	生徒指導（家庭訪問を含む）
		70.3%	43.2%	27.0%	21.6%	2.7%
	特別支援学校	学校内の会議や打ち合わせ（資料準備、事後処理を含む）	その他	校務分掌業務	保護者対応	生徒指導（家庭訪問を含む）
		81.0%	33.3%	23.8%	14.3%	9.5%

④超過勤務の理由

アンケート調査においては、さらに、「なぜ、超過勤務となるのか」についても尋ねました。その理由としては、以下の３点が挙げられました。

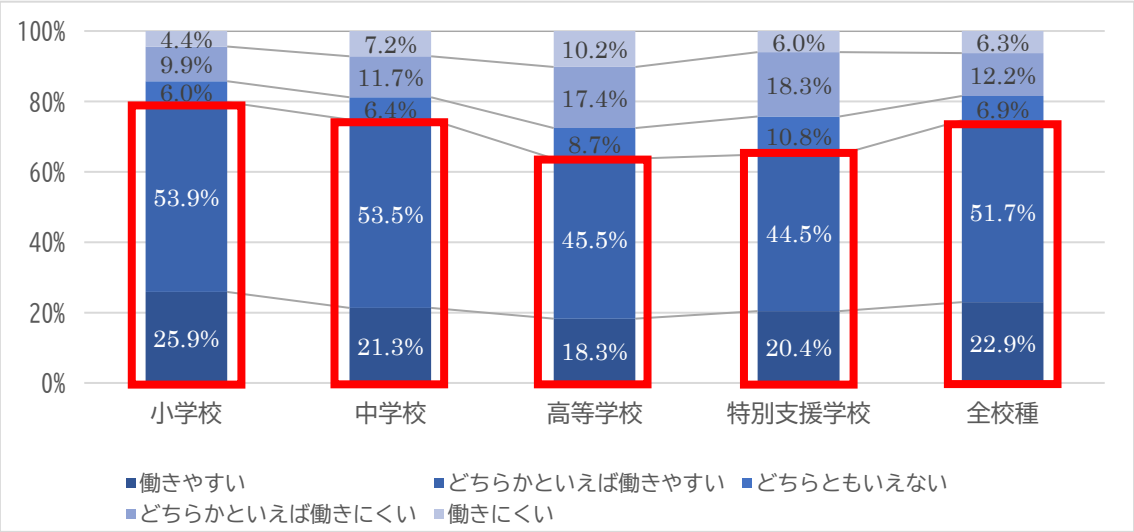
○業務量が多く、現状の人員では長時間勤務をせざるを得ない	61.0%
○提出物の確認、集計、印刷、書類の整理など事務的な仕事が多い	47.7%
○予測できない突発的な仕事が多い	45.8%

昨年度同様に、業務量や事務仕事の多さが上位になっています。「業務量が多く、現状の人員では長時間勤務をせざるを得ない」と回答した割合は、61.0%で、令和４年度調査の 57.9%から 3.1%増加しました。

（２）職場の働きやすさ

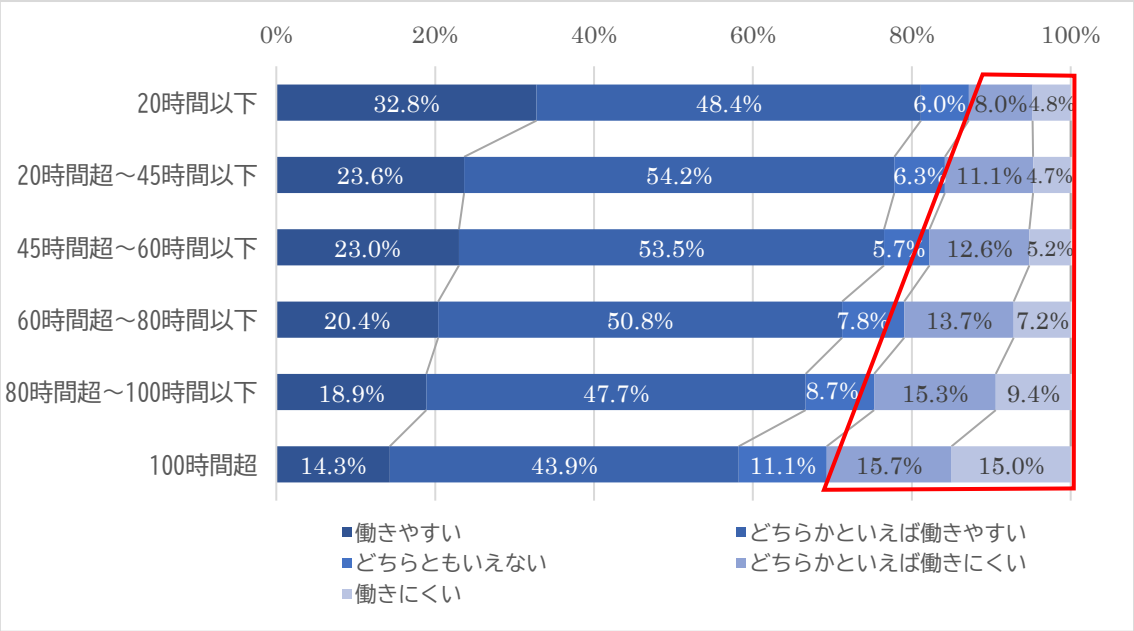
「職場の働きやすさ」についても尋ねました。「職場の働きやすさ」については、「働きやすい」、「どちらかといえば働きやすい」と肯定的に回答した割合は、74.6%（全校種）でした。令和４年度調査の 68.2%から 6.4%増加しました。

○職場の働きやすさ



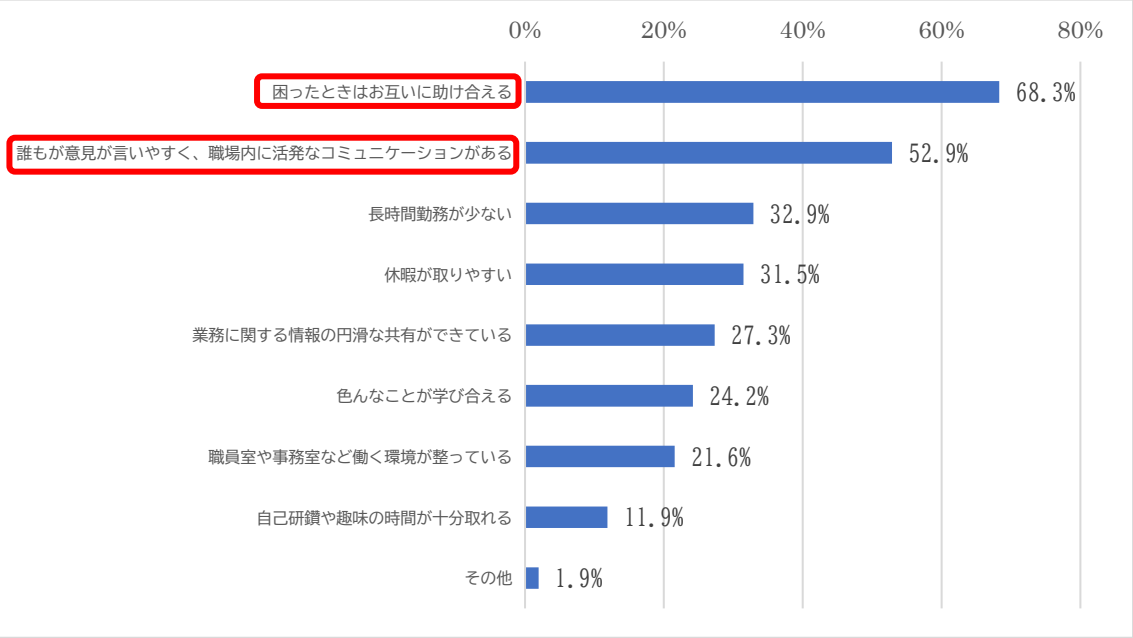
超過勤務とのクロス集計では、長時間労働となるほど、働きやすさを感じにくい傾向が見られました。

○超過勤務時間と「働きやすさ」



また、「働きやすい職場とはどんな職場か」について尋ねたところ、「困ったときはお互いに助け合える（前年比＋3.5%）」、「誰もが意見が言いやすく、職場内に活発なコミュニケーションがある（＋8.7%）」と回答した割合が高くなっています。

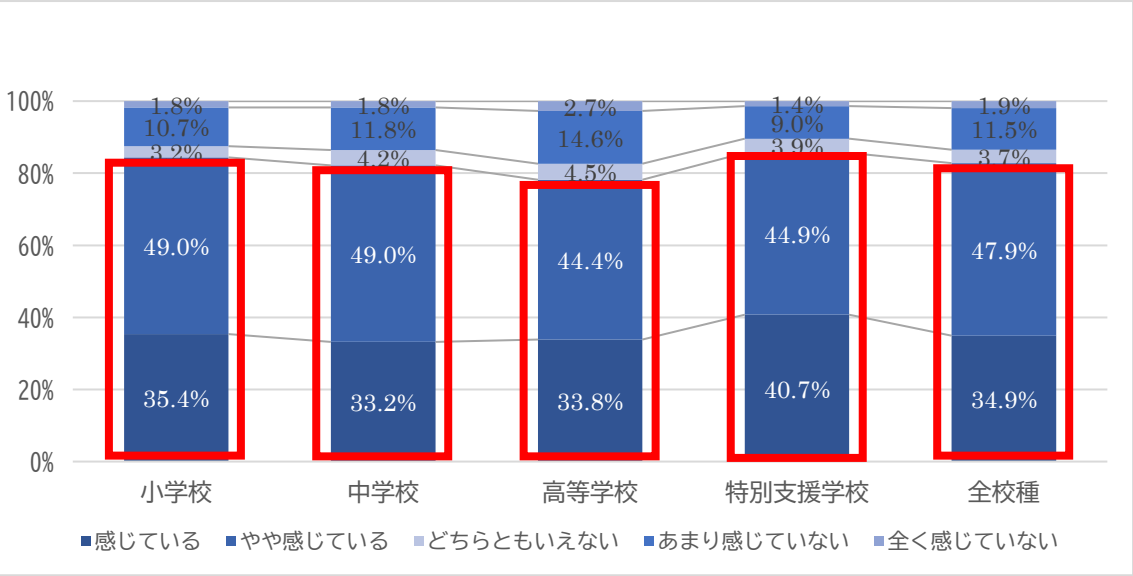
○働きやすい職場とは（複数回答可）



（3）仕事のやりがい

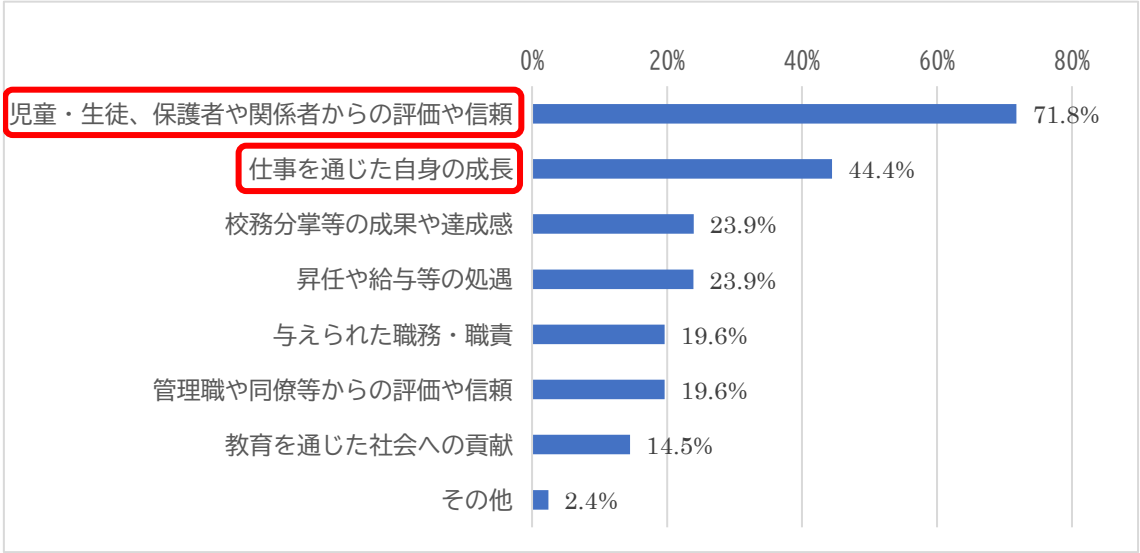
仕事のやりがいを「感じている」、「やや感じている」と肯定的に回答した割合は、82.8%で、令和４年度調査の 77%よりさらに 5.8%高い割合となりました。

○仕事のやりがい



やりがいのもととなるのは、「児童・生徒、保護者や関係者からの評価や信頼（前年比＋9.9%）」が最も高く、次に「仕事を通じた自身の成長（＋2.1%）」でした。信頼関係を構築できるよう、教職員が子どもたち一人ひとりと丁寧に向き合う時間を確保していくことが求められます。

○やりがいの要因（三つまで選択）



（4）効果のあった取組

学校における働き方改革において、効果を実感する取組は、「教員業務支援員（スクール・サポートスタッフ）の配置」、「欠席連絡のデジタル化」、「学校閉庁日の実施」が上位となりました。特に、「教員業務支援員（スクール・サポート・スタッフ）の配置」は、令和４年度調査の 36.4%から 77.8%へと、約２倍に増加しました。この背景には、コロナ禍の収束に伴い、スクール・サポート・スタッフの業務が消毒作業中心から「印刷」や「配布物の準備」など、教員の直接的な支援を目的とした業務へ移行し、教員の業務負担軽減に寄与したと考えられます。

○教員業務支援員（スクール・サポート・スタッフ）の配置	77.8%
○欠席連絡のデジタル化	46.9%
○学校閉庁（休校）日等の実施	46.6%
○校務支援システム	42.9%
○留守番電話（自動応答メッセージ）や電話対応時間の周知	42.1%